

論文発表：ウイルスを抑える自然細菌

下記の論文を発表しました。

前田昌調 (2011) : ウイルスを抑える自然細菌. 畜産の研究、65 巻 7 号、頁 703-706.

論文の項目

1. 自然界でウイルスが消滅する現象
2. 自然界に分布する抗ウイルス細菌の数と抗生物質の影響
3. ウイルスの増加を抑えるには
4. 特定の地域にウイルス病発生の集中する原因

参考資料：ウイルスと細菌の相違

概要：

ウイルスを培養する際には、抗生物質と栄養物質を培地に加えます。抗生物質は、ウイルスの増殖を阻害する雑菌の増加をおさえるため、そして、栄養物質はウイルス増殖の基盤となる細胞の成長を維持するためです。このことは、抗生物質と栄養物質があればウイルスが増殖しやすいということの意味しています。現在の家畜飼料には恒常的に抗生物質が添加されていて、また、家畜飼育地域は、排泄物などにより土壌が高度に富栄養化していますが、このことがウイルス病の拡大する要因と考えられます。土壌の富栄養化は、排泄物を処理することで、短期間でその影響を低くすることが可能です。このため現状においては、家畜飼育飼料より抗生物質を除くことが、ウイルス疾病拡大を抑える有効な手段となります。なお、家畜疾病の際、治療用として抗生物質を使用することは有効な方法です。しかし、疾病がない状態で、予防のために毎日抗生物質を投与する必要はないといえます。事実、ヨーロッパでは、家畜飼料への抗生物質の添加をやめ、治療用のみの使用としており、おおきな弊害、問題は無いといわれています。